

平成27年度全国・学力学習状況調査に係る調査結果等の情報提供について

平素は、本校教育にご支援とご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、去る4月21日（火）に本校も平成27年度全国学力・学習状況調査に参加しました。

葛川小学校としての、調査結果の概要と今後の指導の充実に向けての方向性を記載いたしました。

ご一読いただきますと共に、子ども達の学力向上に向けて、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

記

【調査結果について】

《概要》

【国語A】の説明文では、「書き方の工夫として適切なものを選ぶ」については、高い正答率でした。一方、【国語B】では、「目的や意図に応じて記事を書くこと」に課題が見られました。

【算数A】【算数B】では、整数・分数の計算について他の分野に比べ正答の割合が高くなりましたが、「量と測定」「図形」の問題で課題が見られました。

同時に行われた「児童質問紙」では、「家で毎日宿題をしている」「将来の夢や自信を持っている」「最後までやり遂げてうれしかったことがある」・・・などの多くの項目で良い傾向であり、子どもの生活習慣は定着しています。また、教科学習に対する意欲関心が高いなど、自尊心が高い結果であり、日頃からまじめに一生懸命学習に取り組んでいる学校での子どもの様子と一致しています。学校以外で読書をする時間がやや少ない傾向があるようです。

《強み・弱み》

算数の補充学習である「すくすく算数」の取り組みは5年目となり、その成果としての計算力が向上したと考えています。方法や内容に検討を加えながら更に充実させていきたいと考えます。

国語では、ここ数年「話すこと」に焦点を当てて学習を進めてきました。「発表」、「自分の思いを話す」ことは、技能が高まったと考えます。今後は、「書くこと」（特に、「目的や意図に応じ文章を書く」）に指導の重点をおいて取り組みを進めたいと考えます。

【指導の充実に向けて】

葛川小学校は、1つの学年が極少人数のため、6年生の調査結果のみで学校全体の学力・学習の状況を結果分析し難いという実情があります。「良い傾向」「改善すべき傾向」は学年ごとに特徴が異なり、子どもの学力・学習状況を「集団（学年や学校全体）の特徴」として捉え指導の充実に生かすという考え方から、子ども一人ひとりの学力・学習状況を分析し指導改善していく中で学力の課題を解決していこうと努力してまいりました。今回の調査を受けて、以下の4点を重点として今後の指導の充実に努めたいと考えています。

- ① 成果の表れている「すくすく算数」（年間20時間）については、更に工夫改善を加えながら指導の充実に努めま
- ② 国語の「書くこと」について、「自分の考えを文章表記したり、より適切な表現に向けて『言葉を吟味すること』について、国語学習・日記指導をはじめ、全教育活動で意識的に取り組みたいと考えています。
- ③ 言葉に対する意欲関心を高めるために、「すくすくことば」（週1回10分間）や「ぐんぐんタイム」（放課後Back Up）の取り組みを継続しています。子どもたちがより豊かな表現ができるよう指導を進めたいと考えています。
- ④ 児童質問紙調査の結果から「テレビやビデオ・DVDを見たり、テレビゲームをする時間」はよい傾向が伺えます。「家庭学習のてびき」をもとに、保護者と連携をとりながら、更に学習習慣の定着に向けた取り組みを一層推進したいと考えています。